

阪田知樹さん応援レポート 若き才能のきらめき Vol.3 上野耕平×阪田知樹 デュオ・リサイタル 2018年1月11日(木) 東京オペラシティ コンサートホール

21世紀を担う若きヴィルトゥオーゾたちによる新時代の響き

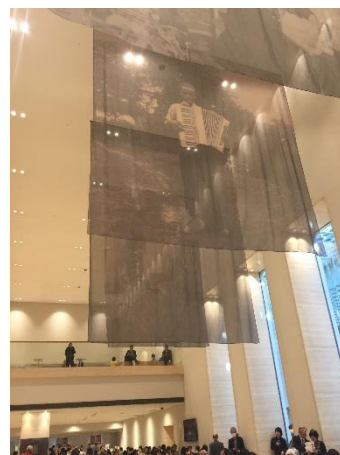
1月11日(木)、東京オペラシティ・コンサートホールで開催された、「若き才能のきらめき Vol.3 上野耕平×阪田知樹 デュオ・リサイタル」。阪田知樹さんの演奏を聴いてきた。

サクソフォンの上野耕平さんとの共演。それぞれ国際コンクールでの入賞経験を持つ二人、会場であるオペラシティのウェブサイトには、『世界においても注目される、21世紀を担うこの若き2人』、『若きヴィルトゥオーゾたちによる新時代の響き』…と華やかな紹介文。

演奏会の会場は、東京・新宿の東京オペラシティコンサートホール・タケミツメモリアル。現代の最新音響技術を用いて設計されたコンサート専用ホールである。

『ホール自身が巨大な楽器となり、引き締まった低音とメローで艶のある音色を奏でる』ホールと、響きの良さには定評がある。

1月ということで館内は新春のイメージで飾られ、とても華やかな雰囲気。



ピアノとサックスのデュオやソロ。濃密なプログラム



プログラムは、ピアノとサックスのデュオや、それぞれのソロが予定され、かなり濃密。

演奏会は阪田さんのソロ「シャコンヌ」(バッハ／ブゾーニ)でスタート。続いて同じくバッハの曲、原曲は無伴奏フルートのための曲という「パルティータ」を上野さんのサクソフォン・ソロで。

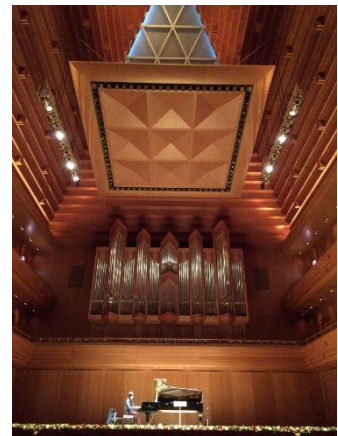
ふたたび阪田さんのピアノソロ、ショパンのスケルツォ第2番。そして前半の最後はお待ちかねの二人のデュオ。ドビュッシーの曲、「アルト・サクソフォンのためのラブソディ」。伸びやかに演奏する二人の姿に釘付けだった。

後半の始まりは、この日注目のひとつでもある、阪田さんが作曲した曲「アルト・サクソフォンとピアノのためのソナチネ」のデュオ。この日が世界初演となるフレッシュな演奏。魅力あふれるメロディーを軽やかに楽しげに聴かせてくれた。



「熊蜂の飛行」、「ホット・ソナタ」と演奏が続き、もう一度阪田さんのソロで「ハンガリー舞曲第5番」。

プログラムラストに予定されていた曲「カルメン・ファンタジー for サクソフォン」(ビゼー／山中惇史)が、文字通り本日のラスト。途中で挟んだトークタイムの盛り上がりのおかげ、はたまた熱くエキサイティングな演奏のおかげ、時間の都合上、予定されていたアンコール曲は披露されずという、おちゃめなエンディング。カルメン・ファンタジー、大変な盛り上がりのうちに終演した。



写真は全てリハーサル時のもの
(写真ご提供: ジャパン・アーツ社)

息もぴったり、またの共演を約束し



終演後の二人(写真ご提供:ジャパン・アーツ社)

阪田さん作曲の新曲を「いや、本当にいい曲で。様々な要素がうま〜く盛り込まれていて」「阪田君はどうして?というくらい、サックスのことをよくわかっていて・・・」と、とても気に入った様子の上野さん。

昨年度には、オーボエのための新曲の披露もあった阪田さん、ピアノ以外の楽器にも大変詳しく、師匠には『歩く百科事典』と言われていたというエピソードを明かしてくれた。

「また二人で演奏する機会も予定したい」と、目の離せないデュオになりそうだ。
阪田さん、素敵な演奏でした。また聴かせてください！次回は幻のアンコール曲もぜひ！

<演奏会概要>

◆出演

上野 耕平 Kouhei Ueno (サクソフォン, Saxophone)

阪田 知樹 Tomoki Sakata (ピアノ, Piano)

◆プログラム

J.S. バッハ／ブゾーニ: シャコンヌ(ピアノ・ソロ)

J.S. バッハ: パルティータ イ短調BWV1013

〔原曲: 無伴奏フルートのためのパルティータ〕

(サクソフォン・ソロ)

ショパン: スケルツォ第2番(ピアノ・ソロ)

ドビュッシー: アルト・サクソフォンのためのラブソディ

阪田知樹: アルト・サクソフォンとピアノのためのソナチネ

〔世界初演: 上野耕平氏に献呈〕

リムスキー=コルサコフ／網守将平: 熊蜂の飛行

シュルホフ: ホット・ソナタ

ブラームス／シフラ: ハンガリー舞曲第5番(ピアノ・ソロ)

ビゼー／山中惇史: カルメン・ファンタジー for サクソフォン



終演後にはサイン会。長い長い列のお客様に、にこやかにサイン